

# 子育て世帯に対する聞き取り調査 報告書

**調査対象**：子育て世帯の父親・母親（25名）

**調査場所**：市内のおやこ広場（4ヶ所）

- ① たんぼっぼ
- ② モコモコ
- ③ カンガルー・ポケット
- ④ らっこクラブ

**調査方法**：それぞれのおやこ広場を利用している子育て世帯の父親・母親に調査の協力を依頼し、1人あたり30分程度のインタビューを行う

**調査内容**：男女共同参画に関する意識、家庭における家事分担、にんじんサロンで実施するセミナーなどについて

**調査日時**：平成27年10月31日（土）、11月5日（木）、7日（土）

## 男女共同参画に関する意識について

### 【聞き取った内容】

○「女のくせに」といった女性に対する偏見や、男女間の不平等などについて、自分がこれまで生きてきた中で感じたことがあると回答した人は、父親・母親に関わらずほとんどいなかった。ただし、自分たちの親世代にはそういった傾向があると回答した人は多かったため、若い世代になるにしたがって、男女間の不平等や性差に対する偏見は改善されてきていることがうかがえた。

○一方、「男は仕事、女は家庭」という考え方については、そう思うと回答した人は一定数いたため、固定的な性別役割分担意識については、解消されているとはいいがたい状況となっている。特に、回答者の何人かからは、夫が「女が家のことをするべき」という考え方を強く持っているという回答があった。なお、回答者のうち、現在専業主婦である人のほとんどは、以前は仕事をしていたが、結婚または出産を期に仕事を辞めたと回答しており、実態としても、結婚等により「男は仕事、女は家庭」という状況になっていることがわかった。

○女性だから損をしたという経験はあるか尋ねたところ、むしろ今は映画のレディースデーなど、女性の方が得をすることも多いといった回答があった。一方、親せきなどの身内の集まりでは、女性が動かなければならないと感ずるという回答もあった。

### 【今後の方向性】

性差による偏見や男女間の不平等の解消について、特に若い世代については一定の実現ができていると考えられるが、「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識については、今後さらに意識の解消を進めていく必要がある。

## 家庭における家事分担について

### 【聞き取った内容】

○専業主婦である母親に、家庭における家事や子育てなどについて協力できているか尋ねたところ、平日については、夫は仕事をしているためほとんどできていないが、休日には子どもを外に連れて遊びに行ってくれたり、家事を手伝ってくれていると回答した人が多かった。なお、夫は家事ができるか尋ねたところ、一通りできると回答した人も多かった。しかしながら、あくまでこちらから頼まないと手伝ってくれないという人も多く、家事や子育てについて、夫が主体的に動いているというよりは、あくまで妻の手伝いをするといったものになっていることがうかがえた。

○仕事をしている母親にも同様の質問をしたところ、家事や子育てについて、共働きであるにも関わらず、母親の方に負担が大きくなっている現状がうかがえた。

○母親に、夫への要望について尋ねたところ、こちらに言われてから動くのではなく、自分から率先して動いてほしいという意見が多く聞かれた。また、子育てについてももっとやってほしいという意見があったが、これについては、たんに自分の子育ての負担を減らしたいということだけが目的ではなく、夫に子どもとの時間をもっと大切にして欲しいという気持ちが含まれていることがわかった。

○父親が仕事から帰る時間を尋ねたところ、平均して8時から9時頃になっている家庭が多く、多くの人が定時の退庁時間よりかなり遅い時間まで仕事をしていることが判明した。また、父親が育休をとったと回答した人は一人もおらず、有給についても、ほとんど消化できていない現状が明らかになった。

### 【今後の方向性】

父親の家事や子育て等への参画を促進するためには、仕事の就労環境を改善していくことが必須であり、今後事業所に対して必要な働きかけを行っていく必要がある。

父親の家事への参画は、休日に限っては一定みられるが、母親に言われてから動くのではなく、必要に応じて自ら進んで自発的に動くようになれば、家庭生活における男女共同参画がより推進されていくものと考えられる。

働いている母親については、仕事の他にも、家庭における家事や子育ての負担が大きくなっている現状があるため、働く女性の支援を充実させる必要がある。

## にんじんサロンで実施するセミナーなどについて

### 【聞き取った内容】

○にんじんサロンに行ったことがあるか尋ねたところ、多くの人が聞いたことはあるが、なにをしているのか知らないため、行ったことはないとの回答であった。また、広報紙やHP、チラシなどで周知を行っていると伝えると、あまりそういったものを見ていないと答えた人も多かった。

○父親を対象とした家事や子育てを支援するセミナーなどについて尋ねたところ、行ってほしいという母親や、行ってみたいという父親は一定数いたが、一人では行きづらいという意見が多かった。どうすれば行きやすくなるかについて尋ねると、一人ではなく夫婦で一緒に行くことができれば参加するかもしれないとの意見が多く聞かれた。また、市で行っているセミナーや講座などについては、基本的には母親が探して、父親を誘って参加するというケースが多いことも判明した。

○母親に対して、どのような講座内容であれば興味があるか尋ねたところ、子育て関係のほかに、今後自分が仕事に復帰する上で、再就職支援など仕事関係についてのセミナーがあれば、興味があり行ってみたいという意見が多かった。

○にんじんサロンだけではなく、おやこ広場や近くの公民館などに出張してセミナーなどを実施してもらえれば、参加しやすくなるという意見をいただいた。また、子どもがいるため各種講座等に参加しづらいと感じている人が多く、一時保育等、子どもを預けることのできるサービスがあれば、参加しやすいとの声も多かった。

○一時保育について、育休中の母親から、興味がある講座があったが一時保育の対象年齢が1歳6か月からだったので、参加をあきらめたという声が聞かれた。

### 【今後の方向性】

にんじんサロンでなにをしているか知らない人が多いことが判明したため、今後さらに実施するセミナー等の周知を強化していく必要がある。

父親を対象とするセミナーなどについては、参加形態を父親一人ではなく夫婦と一緒に

参加してもらおうといったことや、母親から父親を誘ってもらおうように協力を依頼するといった工夫を行うことで、参加者を増やすことができると考えられる。

母親を対象としたセミナーについては、子育て関係や再就職支援等の仕事関係など、ニーズに応じた内容で実施いくとともに、実施場所や一時保育についても、さらなる検討や充実、対象年齢の見直しを行っていくことで、より参加しやすくなるよう環境を整備する。